

発刊にあたって

1975（昭和50）年、沖縄国際海洋博覧会跡地を国営公園として、国において整備管理することが、閣議において決定された。

この国営公園は、国際的規模の亜熱帯性植物の宝庫として整備し、広く国民一般の利用に供することとされ、そのため、我が国における唯一の亜熱帯性植物の育成に関する調査、研究、技術開発、及びその知識の普及、啓発等を実施するとともに、国営公園の管理運営も行う機関として財団法人「海洋博覧会記念公園管理財団」が設立された。

1992（平成4）年11月国営沖縄記念公園首里城地区として首里城公園の一部が開園され、当財団は、海洋博地区と同様に維持管理業務を受託している。国営公園に隣接する県営公園についても併せて維持管理業務を受託し、一元的に公園の管理をしており、2012（平成24）年10月より一般財団法人沖縄美ら島財団として名称を変更している。

当財団は、亜熱帯性動植物、海洋文化、首里城等に関する調査研究、知識の普及啓発、技術開発、サービスの提供等および公園緑地、レクリエーション施設、教育施設等の管理運営、並びに首里城基金の造成、管理および運用等の事業を行い、市民の心身の健全な発達および環境の保全に寄与すること、並びに地域社会へ貢献することを目的としている。なかでも首里城公園管理部においては、公園の維持管理・運営と伴に、首里城に関する調査研究及び知識の普及啓発、展示資料の収集等を行う首里城基金の造成・管理運用を行っている。

首里城に関する調査研究は、琉球王国時代のおもに美術工芸品（漆器・書跡・絵画・染織・金工品他）について、多角的な視点から研究課題を掲げ、県内外の大学や調査機関、研究者から協力を得ながら、事業を実施している。事業を継続している中で新たな資料が発見され、最先端の技術や機器によって調査データの収集も充実してきたところである。

普及啓発事業は、琉球王国の歴史文化・首里城に関する個別のテーマを設定した魅力ある企画展示等の事業を実施した。

これら前年度（平成25年度）に実施した調査研究・普及啓発事業の成果を『首里城公園管理センター 調査研究・普及啓発事業年報』として発刊することとした。本紙が今後の首里城に関する理解や更なる調査研究の一助になれば幸いである。

2015年3月

一般財団法人沖縄美ら島財団

首里城公園管理部

部長 豊岡正広